

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅰ 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は「一人ひとりの尊厳を大切に」安定した生活を実現するよう努める。「入所者の生活の質の向上に努め全力を注ぐ。いつもの笑顔でアットホームな雰囲気作りをめざす。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症に人に関する専門的な知識と技術等を指導しつつ、その人らしい生活ができるように支援していくこと。利用者本位のサービスのあり方などを具体的に示し、ケア職員に日常的に話している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	行事や懇親会など、地域に回覧板や案内をだし、家族や地域の人々にホームの説明や日常のことを知ってもらえよう等、積極的に啓発している。		もっと利用者のことを知ってもらうためこれからも行事・イベント等にお誘いし、親睦を深める。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員はご近所の方々との交流も大事にしている。「挨拶・親睦会への呼びかけ」など日常的な付き合いを常に大事にし努めている。		入居者との散歩の時も職員・入居者がご近所の方々に挨拶等気軽に接している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	参加の予定です。	○	町内会、老人会に入る予定です。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の高齢者の方々が車に乗・下車時、介助手伝ったりなど、親子さんの帰宅が遅かった子どもさんをホームにあずかる。	○	近所の子どもさんをホームに招待したい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	よりよい生活・支援等を作っていくために評価を活かし、改善するするところはすぐに取り組んで入居者・家族に安心してもらえるよう日々努めています。		外部評価の改善すべき点を参考にし職員ミーティングを開き、どのように改善するかを話し合い、改善につなげている。
8	5	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、日々の報告や改善状況の話し合いを行い、よりよいサービス・支援・生活の向上に活かしている。	○	推進会議での話し合い等の報告を全職員に理解してもらうようにミーティングを開く。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問に思ったことや改善・向上についてのアドバイス等、行き来する(連絡する)機会を作り、指導を受けよりよいサービスの向上を目指している。		玄関先に掲示している他、食堂・リビング
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	虐待等のニュース等を聞くと、職員同士、意見や考えを話し、ミーティング等の場で一人ひとりにわかるよう学んでいる。常に虐待等が見過ごされていないかを考え努めている。		虐待・拘束のパンフレットをファイルしている。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約等の時は家族に十分理解してもらうため書類を渡し、よく読んでもらい疑問や質問を投げかけてもらい、わかりやすい説明をし、十分納得してもらっている。		少しの疑問も無いようにするため、職員は全員サービス・生活のこと等を把握し説明できるように努める。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が相談や苦情を第三者に伝えるための機会を設けてくれる。	○	苦情を寄せやすい雰囲気を作る。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	よく面会に来ている家族には日々の暮らし、健康・金銭チェック等家族に細かに伝 えている。忙しくあまり面会に来られない 家族には手紙・電話などで定期的な報告を 行っている。		金銭などは出納帳を作り、毎月コピーをし 残金等をわかりやすく記入し、郵送してい る。家族が面会の時に 出納帳を確認してもら い、印鑑をもらっている。面会が無い場 合は管理者がチェックする。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	質問を受けたらその場で対応・速やかに改 善に向けて実行する。		苦情受付箱を設置している。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ミーティングを開き職員の意見や提案 を参考に改善を目指している。一人ひとり の意見が職員の意識を高めよりよいサービ スを努めている。		一人ひとりの意見を出し合って発表してい る。確認もしている。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	そのつど休みの職員に承諾を得て出勤して もらっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	スタッフが離職する時は入居者さんに知ら れぬ様に勤めている。気づいた時点で理解 してもらっている。わからない方はそのま まにする。		不平不満はためない様に話し合う。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	お互いに入居者の情報交換をしている。		自分の力を発揮している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用・募集に関しては、性別や年齢に関係なく、介護職における基本姿勢等の資質を重視して採用している。		意欲のある者は有資格者でなくても、当ホームより講習を受けに行ってもらっています。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の人権学習に参加した後でホーム内で伝達を行った		学習に参加し資料保管している。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に成長してもらうため、ローテーション等で研修を受けに行く機会を作っている。日々知識や技術等を指導している。		細めにケアの見直しをする。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームの職員と交流を持ち、相互訪問をしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩みに関しては、管理者が職員から悩み等を聴きやすいような関係作りに努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	お互いに入居者の情報交換をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いた家庭的な雰囲気をもっとうとしているので、優しい雰囲気で接し、ゆったりとした話しかけや態度で接する。		穏やかで楽しい尊厳のある生活
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず目線の高さを低くしきちんと向かい合って話しを聞いて日々傾聴に心がける		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意見を取り入れてそれまでの生活の断続を大切にサービスする。		細めにケアの見直しをする。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の個々の経歴を職員全員が十分に把握しそのことを日々のケアに活かす。		傾聴を大切にしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を家族同然に暖かく見守り、人生の先輩としても日々入居者に学んだり、支えあったりしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員はどんなに忙しい時でも、入居者さんから話しかけられたら、必ず手を止めて熱心に話しを聞いている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一人ひとりの得意な事を職員が把握してお手伝いをしてもらい、その後は必ず喜んで感謝の言葉をかける。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各部屋に孫やひ孫、ご家族の写真をかざる。好きなスターのポスターを貼る等。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	リビングで過ごされている時は、お互いに昔話をして心配したり、笑ったり怒ったりしている。		散歩時は入居者さん同士が手をつないだり車椅子を押ししたりしている。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状は行事の案内を出している。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。起床時間や入浴等自分のペースを受け入れる姿勢で見守り、必要に応じて言葉かけを行っている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を把握し、その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、それぞれの主体的な役割を支えるケアを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は常に入居者を見守りやすい場所において全体を見守っている。		記録に取る
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時の他、面会時に家族等と話し、意見やアイデアを聞き、反映させている。家族の了解のサインももらっている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月の間で介護計画書の見直しをしている。常に家族に相談し本人とも話している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や申し送りノートには、入所者一人ひとりの日常生活様子が具体的に記入されている。個人個人の介護計画に活かしている。		個別のケースファイルを設けて記録している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	触れ合いと交流のある暮らしをしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	飯塚市の相談委員の方が来て下さる。		福祉研究ガレッジ・(株)介護家族の生徒実習を契約している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	近くのグループホームの管理者と話し合い、満室時などの入所希望者を紹介しあっている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	自治会長、地域住民、入所者ご家族代表者、飯塚市相談委員など引き受けていただき相談している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの開業医のDrと密に連絡を取り往診等もしてもらっている。	○	医療機関による24時間体制の病院とも手続き中。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対して理解や詳しい医院で職員の相談や、入所者の診断・診察を受けられるよう医師と常に話し合って支援している。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	準看護職員がいて日々の健康管理を把握している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、ホームから積極的に医療機関及び家族に連絡を取り、早期退院につなげている。		入所さんを同行してお見舞いに行き勇気づけている。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	診察のつどDrの注意事項をご家族に伝え今後の支援に向けて同意協力を請う。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ベット上にての日常生活を余儀なくされた方には、職員全員で快適に暮らせる様、努力して支援する。		体位変換等で褥瘡予防、ストレス解消を取り除く。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転時に健康確認、日常生活動作、認知障害、身体障害等のサマリーをファイルして渡す。		先方のホームに気の合った入居者さんと面会に行く。
<b>【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重した言葉づかい、態度、介助等プライバシーを損ねるような対応はしていない。一人ひとりの人格を尊重した対応がなされている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入所者の能力に応じて外出したり、買い物の商品や献立の希望等を聞き、決定できる取り組みを日々行っている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりの自分のペースを尊重し、本人とも話し希望等を選択・決定し支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所者や家族の希望により、近所の理美容院を利用したり、望むお店に行けるよう努めている。職員が美容師の資格を持っているので、理美容を受けるのを希望される時は対応している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はその日に入所者の希望等があれば参考にしながら決めている。配膳・片付け等入所者の協力のもと楽しんで過ごしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	就寝前の梅酒・牛乳等望む方には用意している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しオムツには紙パンツに替え、トイレの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの入浴時間は大まかで決まっているが、くつろいだ入浴ができるように時間や長さ、回数は出来るだけ入所者の希望に沿うようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて自分のペース等把握し支援している。夜眠れない入居者には日中できるだけ身体を動かしてもらい、生活リズムを作り安眠誘導を図っている。		D r 指示にて眠剤服用者もあり。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所者一人ひとりの出来ることに合わせ、楽しみごとの支援及び出番が見出せるように、朝の体操リーダー・庭の草取り・配膳・読み聞かせ・テレビ係等場面作りの支援を行っている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に買い物に出かけており、自分で金銭管理が出来る入居者については同行にて買い物を行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物へ出かけており、また行事などを通して地域へ出る機械を多く持てるように設けている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入所者全員職員同行にて花見・外食・芋ほり・一泊旅行に行く。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者や家族が電話や手紙のやり取りを希望した時はいつでも支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族等が気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めている。遠方から公共交通機関を使って訪問する家族には、最寄の駅まで送迎を行っている。家族が泊まれるように布団・食事の準備をされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを全職員が確認しており、身体拘束のないケアを実践している。		マニュアルを作成している。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。入所者の出入りは自由で、住宅街の周りの散歩等されている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊時にも施錠はせず落ち着くまで見守りをしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所者の目に付きにくい所・手の届かない場所に保管し職員が気をつけている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の目の付きやすい箇所にマニュアルをさげている。時折目を通す。		ヒヤリハットの記録帳簿に記入している。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署より救急隊員による応急手当・蘇生術の講習を受けた。		救急時の連絡・対応のマニュアルを作成している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防隊員による避難訓練を実施した。		マニュアル作成。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体機能や認知が今以上に進行しない様、書院が努力して昼間どんなに楽しい事があっても夕方になると帰宅願望がつのりますので家族との話し合いを大切にしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	便と尿の排泄と色・量の観察、毎日のバイタルチェック、体重測定		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには処方された薬等が綴じられており、職員はそれを確認して用法・用量等を承知している。薬の変更や症状の変化等は申し送りにて確認している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立の配慮、ラジオ体操、天気の良い日の散歩		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、就寝前に義歯取り出し・洗浄・消毒液に保管		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分補給量を記録にとって管理している。献立表を管理栄養士にチェックしてもらう。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出からの帰ホームの際は必ず手洗い・うがいを励行している。食後と就寝前は口腔ケア実施。感染症予防に対するマニュアルを作成している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日行って新鮮なものを購入して調理している。調理器具、フキン等は毎日キッチンハイターや煮沸消毒をしてチェック表に記入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花を植える。季節のものを下駄箱の上に置く。		リビングに飾り付けをする。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や設備、物品等は一般家族と同様のものが使用されている。共同の居間はたたみしきとなっている。生活空間も家庭的な居心地のよい雰囲気である。入浴は1人ずつ入る。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食堂にそれぞれ好みの位置に座り、自由に過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の私物が持ち込めるので、使い慣れた鏡等の生活用品、小物入れ等が持ち込まれている。家族が持参した写真や絵などが飾られている。		
86	—	い  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居間と食堂がオープンになっているので、換気扇を常に回している。居間や寝室の冷暖房の調節は適宜実施している。散歩で誰もいないときは全窓開放している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器歩行、手すり使用などの個々の日常生活動作を把握し、その状況に応じて行えるところを見つけ出している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの心理機能を把握又は、理解して混乱・パニック時の対応を日頃より職員でミーティングしてケアに生かしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	門扉の前に椅子を並べて外気浴をする。庭の草取り、花植えをする。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほほ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほほ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほほ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方の暮らしを支えるため、それまでの生活の継続性を大切に24時間サービスを提供します。社会人としてがんばってこられた方の尊厳を大切に、安全で快適に楽しい生活を実現する様努力します。